

情報モラル教育実践授業報告書

対象学年	高校 3年
領域	教科指導 (科目 総合実践)
指導項目	ネット社会に潜むさまざまな問題について、トラブルに巻き込まれないようにするための対策を主体的に考える。


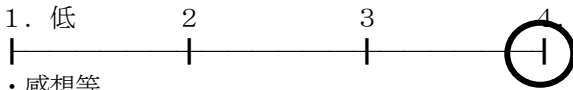
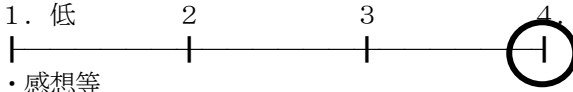


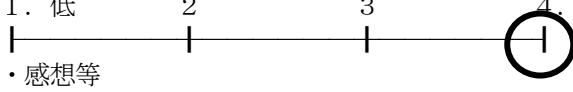
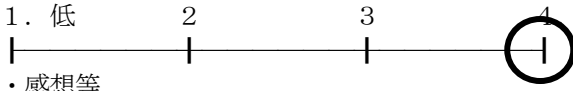
情報モラル指導モデルカリキュラム (http://kayoo.org/moral-guidebook/model/model-curriculum.html)			
指導分野	取り上げる事例によって異なる (情報社会の倫理, 法の理解と遵守, 安全への知恵, 情報セキュリティ, 公共的なネットワーク社会の構築の中から, グループごとに異なる事例で取り組ませる。)		
コード	-	指導事項	-

授業前の生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生になって、情報機器の扱いにも慣れ、校内の人間関係もほぼ固まりつつある。ただ、ネットを取り巻く環境やトラブルに危機感をもっている生徒は少ないように感じる。 ・特定のグループの中では活発な話し合いができて、他の仲間とは思うように話し合うことができない。
期待される生徒の変容 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット社会に潜む闇について自分なりに考えて、他の人と意見交換をする中で、更に個人としての考えを深め、解決策やトラブルに巻き込まれない方法を考えることができる。 ・仲間と一緒に協力しあい、成果をまとめることによって、協働的に問題解決に取り組むことの大切さを理解できる。
生徒の変容を促すための授業の工夫 (ポイント)	<ul style="list-style-type: none"> ・短編の情報モラルに関するトラブル事例を見て、問題点や解決策を個人で考えさせた後に、グループで協議する。 ・ランダムにグループ分けを行うことによって、自分とは違う考え方に触れるようにする。
利用するコンテンツ等 (サイトのアドレス) または資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット社会の歩き方 http://www2.japet.or.jp/net-walk/

<生徒の感想>

・「グループワーク形式の授業について」	楽しかった	76%	ふつう	24%
・「講義形式の授業と比べて、内容について」	理解できた	84%	ふつう	16%
・「グループの仲間と協力できたか？」	協力できた	94%	ふつう	6%
・「ネット社会に危機感を感じたか？」	感じた	94%	変わらない	6%

評価

生徒について	生徒の 興味関心の度合い	1. 低 2 3 4 高  理由・感想等 ネットトラブルや依存症などが、社会問題にもなっていることについて、身近な問題として捉えており、生徒の興味関心は高い。
	生徒の理解度	1. 低 2 3 4 高  理由・感想等 ネットトラブルや依存症などが社会問題となっていることは知っていた生徒が多かったが、グループワークを通じて、自分に関わる問題となりうることを理解することができた。
	生徒の 変容の度合い	1. 低 2 3 4 高  理由・感想等 協働的に取り組むことによって、グループの仲間と同じ意見を共有できた。また、自分とは違う考え方にも触れることができ、視野を広げることができた。
授業について	事前準備の難易度	1. 難 2 3 4. 易  理由・感想等 視聴させたい教材の選定や、グループ分けなど多少考慮する必要があるが、さほど準備に難しさは感じられない。
	指導者にとっての 授業展開の難易度	1. 難 2 3 4. 易  理由・感想等 とにかく時間配分が難しい。時間を区切って進めていくことで、生徒達もメリハリがついてよいと思う。ただ、模造紙に書き込んでいくまとめの部分ではグループによって取組に差が見られたので、進捗度に応じて適切な声かけが必要になる。
	授業の「ねらい」の 達成度	1. 低 2 3 4. 高  理由・感想等 生徒達の感想からみても、講義式の授業に比べて「ねらい」の達成度は高いと思う。自分たちで考え、まとめることはとても重要である。
	指導方法の 効果の度合い	1. 低 2 3 4 高  理由・感想等 自分たちで考えた対策を模造紙にまとめさせ、発表させることによって、思考を深めさせることができ、自覚を促すことにつながった。
<実践の感想及び反省点等> 予想していたよりも、生徒たちはさまざまな意見を付箋紙に書くことができ、積極的に取り組むことができた。ただ、時間配分に留意することが必要である。また、グループによって進捗度に差が生じた場合は、適切な声かけが必要になってくる。1時間で実施するよりも、2時間ほどかけてグループワークや振り返りなどに時間を多くかけられるとよい。また、授業のねらいが達成できたのかどうか、事前に自分で目標達成基準を決めておくといよい。そしてこの授業をやって終わりではなく、その後どのような実践につなげていくかが重要である。		

実践例

配当時間		学習のすすめ方	指導のポイント・留意点
導入	5分	1 本時の授業のねらいの理解 2 クラスで実施した情報モラルに関するアンケートの集計結果の理解 3 グループ編成 ・5～6人で構成される6グループに分ける。	・アンケートの集計結果をグラフ化し、プレゼンテーションソフトにまとめ、提示する。 ・グループはランダムに分ける。
展開	40分	4 グループごとに情報モラルのトラブル事例の視聴 ・各グループに割り当てられたテーマを視聴する。 ・「ネット社会の歩き方」 → 高校生 → 一覧から探すへとページを進める。 5 グループごとに対策や解決策の協議 (1) 視聴したトラブル事例について、問題点をできる限り多く挙げ、赤色の付箋紙に書き、模造紙に貼る。 (2) 問題点を整理し、類似した問題を集めて貼り直す。 (それぞれの問題に小テーマを付ける) (3) 問題に対する対策や解決策(望まれる変容)を、黄色の付箋紙に書き込み、問題を書いた赤色の付箋紙の近くに貼り付けていく。 (4) 黄色の付箋紙を集めて、対策や解決策(望まれる変容)のための方法を考える。 6 問題解決に向けたポスターの作成 ・5で考えた対策や解決策(望まれる変容)をポスターにまとめる。 7 対策や解決策の発表 ・作成したポスターを使って、視聴した事例と協議した内容を発表する。	・教材を最後まで視聴せずに、問題提起の部分のみ視聴させる。 ・時間を区切りながらテンポよくすすめるよう促す。 ・対策や解決策を項目に整理して、図やイラストなどを入れて、他の人が理解しやすいように工夫するよう指示する。
まとめ	5分	8 インターネットを利用するにあたって ・グループの発表を聞いて、共通する対策や解決策を考え、インターネットを利用するにあたって留意すべき点をワークシートに記入する。	